

会長あいさつ

会長 染川 朗

第23回定期大会にご参集いただきました代議員の皆さん、お疲れ様です。

定期大会の開会にあたり、まずは、コロナ禍の中、人と人との接触が避けられないため自らの感染リスクも高い現場で懸命に高齢者や障がい者の暮らしと命を支え続けている全ての組合員に、敬意を表します。

挨拶冒頭ではございますが、皆さんに大変残念なお知らせをしなければなりません。

私たちNCCUの結成当時にゼンセン同盟 組織局長であられた二宮誠氏が、本年3月9日にご逝去されました。NCCUを結成する原動力となり活躍され、事実上のNCCUの生みの親ともいえる二宮氏は、介護保険制度が開始される前年の1999年、「介護従事者は国が定める介護保険法や介護報酬・行政の運営に大きな影響を受けるため、国や行政に対して直接働きかけが出来る労働組合でなければならない。そのためには、日本で一般的な企業別労働組合ではなく、欧米で主流となっている企業を横断した職業別労働組合、いわゆるクラフトユニオンとして労働組合を組織し、運動を展開しなければならない」、そう判断し、NCCUの結成と発展に多大な尽力をいただいた方です。

もうおひと方、元衆議院議員で、結成当初からNCCU政治顧問を務めていただき、後に厚生労働大臣も務められた三井^{わかお}辨雄先生が本年4月2日にご逝去されました。まさに政治の中心でNCCUの政策実現のために多大なご尽力をいただき、2000年の介護保険制度開始以降、引き下げが続いた介護報酬を2009年初の引き上げに転じさせるなど、三井先生は介護従事者の処遇改善、社会的地位の向上に功績を残されました。

お二方には、延期となっている20周年記念レセプションで成長したNCCUをご覧いただき、ともに喜び合うことを楽しみにしていましたが、残念でなりません。

NCCUの総意として本日もご参集の皆様と共に黙祷を捧げ、お二方への感謝を表すとともに、ご冥福をお祈りしたいと思います。

<黙祷>

さて、一年間を振り返ると、本年4月の介護報酬改定に向けて昨年展開した『介護報酬改定に向けた50万人署名活動』は、最終的には目標を上回る52万0,029筆を集約し、『介護従事者が、介護の仕事安心して長く続けることが出来るよう介護報酬水準の設定をしてください』『ご利用者・ご家族そして介護従事者が、理解し納得できるよう簡素な仕組みの介護報酬を設定してください』という2つの思いとともに、当時の田村厚生労働大臣に提出することが

出来ました。そして財務省からの「社会保障費増加に対する強い圧力」があるなか、全てのサービスでプラス改定、全体で0.7%のプラス改定となりました。これは、私たちの運動の成果と呼べるものと考えております。

しかし課題も残しました。目標の50万筆は達成したものの、およそ半数の組合員が署名活動に参加していませんでした。このことは組織の課題として、組織強化を通じて改善しなければならないと考えています。

介護保険法の改正や介護報酬改定を議論する中でたびたび俎上に載せられてきた「人材確保のための処遇改善」「他産業との処遇格差の是正」という視点で評価をすると、処遇改善の促進策は、介護職員等特定処遇改善加算の取得率を高めるための取得要件緩和にとどまっています。処遇改善を労使共通の重要課題として特定処遇改善加算の取得に積極的に取り組み、全体の取得率が既に98%に及んでいる私たちNCCU組合員にとっては、残念ながら効果のある改定内容とはなりません。

本来であれば、最低でも10%、将来的には20%の基本報酬のプラス改定をし、介護従事者の処遇を他産業と遜色のない水準としなければ、思いがあってもこの仕事を続けている人たちだけでは介護保険制度を支えきれなくなるのではと懸念しています。

そのような厳しい交渉背景の中とはいえ、各分会においては、春季労働条件交渉をはじめ一時金交渉、さらに分会独自要求など、組合員の労働環境、処遇を改善するための様々な交渉を進めてきました。後ほど報告しますが、一定の成果を出している分会やまだまだ粘り強く交渉を継続している分会もあります。分会活動を担っていただいている分会役員の皆さんに感謝を申し上げます。

10月4日、岸田内閣が発足しました。就任会見で岸田首相は、「医師、看護師、介護士、さらには幼稚園教諭、保育士、こうした社会の基盤を支える現場で働く方々の所得向上に向け、公的価格のあり方の抜本的見直しを行う」と表明しています。しかし、実現のための財源確保や実施時期などについてはこれから検討というのが実情です。また介護福祉士以外の介護従事者の賃金改善も進められるのか不明であり、現在の処遇改善加算対象外職種や介護福祉士の資格を取得していない介護従事者が置き去りにされることも懸念され、決して楽観視は出来ません。

そのため、今月31日投票の日程で行われるとされている衆議院議員選挙において、私たちの政治顧問であり現衆議院議員としてNCCUの政策実現にご尽力いただいている山井和則衆議院議員と柚木道義衆議院議員を、また、来夏に行われる参議院議員選挙において上部団体であるUAゼンセンの組織内議員川合孝則参議院議員を、それぞれ全力で支援し、引き続き国会に送り出すことで私たちの声を途切れなく国に届け、次の法改正・報酬改定を待たずして新たな処遇改善策を講じるよう、国や行政に働きかけていかなければなりません。

そして介護従事者の処遇改善・社会的地位の向上の実現につなげなければなりません。

組合員に政治活動の重要性をしっかりと理解していただき、必ずや勝利出来るよう、皆さん

にもご協力をお願いいたします。

既に約 1,000 人の組合員が感染している新型コロナウイルス感染症への対応については、業務中に感染された組合員への感染症見舞金や入院治療を伴った組合員への入院見舞金、長期休業を余儀なくされた組合員への長期休業見舞金の給付を行いました。

また、コロナ禍における現場の課題解決に向けて、上部団体 U A ゼンセンの川合たかのり・田村まみ両参議院議員や N C C U 政治顧問の山井和則・柚木道義両衆議院議員、森本しんじ参議院議員とも連携し、国や行政への働きかけを行ってきました。

さらに、全国の総支部・支部においては、上部団体の都道府県支部に協力をいただき、各地の自治体に対する要請活動を積極的に展開し、在宅系介護従事者へのワクチンの優先接種や、介護事業所に対する自治体独自の支援策強化につなげてきました。このような総支部・支部における政策実現活動の量や、実現した成果は、様々な自治体への波及効果も含め、N C C U 結成以来、過去最高レベルに達しました。

現在、組合活動の中で大切にしなければならないフェイス to フェイスでの活動は難しい状況が続いています。しかし「出来ないとあきらめるのではなく、出来ることをやっ払いこう」とスタンスでそれを克服し、様々な工夫をしながら WEB システムを使った会議やステップアップ研修会、N C C U タウンミーティングなどを開催し、直接会えなくてもフェイス to フェイスに近い形で活動を行っていくことができました。

地域における政策実現活動を含め、様々な活動を支えていただいている総支部・支部の皆さん、関係者の方々に感謝を申し上げます。

かつての日常を取り戻すまでは今しばらくかかりそうですが、新年度の活動においても、組合員の労働環境と処遇の改善および社会的地位の向上に加え、コロナ禍における課題の解決に向けて取り組みます。組唱歌にフレーズとして刻まれている「ひとりひとりが踏み出すことでひとつ一つに向き合うことで 未来を築こう 絆のもとに」という考え方のもと、組合員全員が一丸となって活動を進めましょう。

以上